

平成26年5月21日

内閣総理大臣 安倍晋三様
文部科学大臣 下村博文様
東京都知事 舛添要一様
独立行政法人日本スポーツ振興センター
理事長河野一郎様

神宮外苑と国立競技場を未来へ手わたす会

共同代表:大橋智子・大橋智子建築事務所

上村千寿子・景観と住環境を考える全国ネットワーク

酒井美和子・デザイナー、まちまち net

清水伸子・一般社団法人グローバルコーディネーター

多田君枝・「コンフォルト」編集長

多見貞子・たてももの応援団

日置圭子・地域文化企画コーディネーター・粋まち代表

森 桜・アートコーディネーター・森オフィス代表

森まゆみ・作家・谷根千工房

山本玲子・全国町並み保存連盟

吉見千晶・住宅遺産トラスト

e-mail info@2020-tokyo.sakura.ne.jp

FAX 03-6380-8812

「国立競技場の解体中止と改修検討をもとめる緊急要望書」

初夏の候、ますますご清栄のことと存じあげます。

私ども「神宮外苑と国立競技場を未来へ手わたす会」は、昨年10月28日にまちづくりや歴史的建築の保存、震災復興等に関心を寄せ、活動をしている者が集まり組織した会です。昨年11月25日に要望書を提出したあと、さまざまな分野の方々をお招きして4回の公開勉強会を重ね、知見を深めて参りました。その中で、新国立競技場建設は多くの問題点を含み、将来に禍根を残す計画であることを確信いたしました。

このため、新築ではなく、現国立競技場を改修して使おう、という声は日に日に高まっています・・・今壊してしまったら、ザハ・ハディット氏の案が工期、構造、予算等のために建たないことが判明した場合、オリンピックそのものが開催できなくなります。新国立競技場計画が公表されたあと、建築家、都市計画家、市民のほとんどがザハ・ハディット氏の案に良さを見いだせず、計画の再考を求めています。更に今川憲英、森山高至、伊東豊雄の各氏をはじめ、こころある建築家は改修で行くべしという立場から勇気ある改修案

を提示し、議論を深める努力をしております。また JSC が依頼した久米設計による改修検討もようやく情報公開により日の目を見て多くの市民が関心を示しております。

7 月から国立競技場を取り壊す計画とのことですが、以下の理由により、取り壊し計画を中止し、現国立競技場を改修して使い続ける方向に舵を切ってください。

記

1 現国立競技場は、1940 年に開催が決まりながら、幻となったオリンピックの記憶、雨の学徒出陣の記憶、さらに 1964 年東京オリンピックへと神宮外苑の歴史の記憶を連綿と感じさせることのできるスタジアムです。これには、神宮外苑の歴史の継承と景観の保全に取り組んだ先人の努力の結果として現国立競技場があります。これは軽々に壊して良いはずがありません。

2 現在進められている計画は、陸上競技、サッカー・ラグビー会場として、どちらにも使い勝手の悪い計画です。中途半端な計画を押し進め、維持費ねん出のために音楽イベント会場化するのは本末転倒です。もっと、スポーツを市民生活の中に活かしていけるような整備をするべきです。

3 2020 東京オリンピック・パラリンピックでは、「もったいない」という、モノを大切にする日本人の美德を世界に発信するチャンスです。現国立競技場を改修して使いつづけてこそ、『さすが日本人』といわれるオリンピックとなるでしょう。また、改修して使い続けるための技術こそ、今、確立していかなければならない急務であると考えます。

4 新国立競技場のために膨大な費用をかけるより、建設費を抑制して、その分、遅れている震災の被災地への復興に向けるべきです。東日本大震災から 3 年以上経過してなお、多くの人たちが避難生活を余儀なくされていることを忘れてはなりません。

5 ザハ・ハディット氏の作品が、先ごろソウルでオープンいたしました。新国立競技場よりも小さな規模でありながら設計から完成まで 8 年の歳月がかかっており、費用も増大しています。隣国の事例を見ても、新国立競技場案が 2020 東京オリンピック・パラリンピック、いや 2019 年ラグビーワールドカップ開催に間に合うかどうか確証がありません。確証がない中で国立競技場を解体することは、オリンピック開催を危うくするものです。

以上